

地域社会との連携

浮 葉 正 親

1. これまでの経緯

留学生センターは教育交流部門を中心として長年にわたり地域社会との連携を図ってきたが、留学生センター全体が主体的に地域社会との連携を目指す取り組みを始めたのは平成13（2001）年度からである。平成14（2002）年度にはセンター内に地域連携委員会を設け、地域連携事業をセンターの活動の一つの柱として位置づけた。これまでの連携事業は、大きく「オープンフォーラム」と「地域連絡会」の2つに分けられる。

オープンフォーラム

留学生センター教員の教育・研究の成果を地域の人々に知ってもらおうと同時に、地域の声を聞くことを目的としてセンター主催のオープンフォーラムを開催してきた。

- 第1回 2002年3月 「地域日本語教育の方法を考える」
- 第2回 2002年12月 「多文化共生社会を生きる」
- 第3回 2004年3月 「ネットのリソース 地域の日本語教育」
- 第4回 2005年3月 「『留学すれば喋れるようになる』のウソとホント」

地域連絡会

平成14（2002）年に 愛知県国際交流協会、名古屋国際センター、東海日本語ネットワークの3団体に呼びかけ、地域における日本語教育活動や異文化理解教育に関する事業について情報・意見交換のための連絡会を設けた。これまでに下記の通り6回の会合を開いた。

- 第1回 2002年10月
- 第2回 2003年1月
- 第3回 2003年3月
- 第4回 2003年10月
- 第5回 2004年3月
- 第6回 2004年10月

平成14（2002）年度には地域貢献特別事業費、平成15（2003）年度には地域貢献特別支援事業個別事業費の交付を受け、連絡会での討議をもとに以下の共催事業を行った。

- 2003年3月 日本語ボランティア現職者研修会
「地域日本語教室の運営を考える～運営の方法と教え方～」
- 2004年2月 小中学校教員セミナー
「教師のための異文化理解実践 留学生とのふれあいをとおして」

また、平成16（2004）年度には留学生センターの予算で、以下の共催事業を行った。

- 2005年3月 小中学校教員・日本語ボランティア現職者研修会
「外国人児童・生徒をめぐる地域と学校」

2. 平成16（2004）年度の活動

本年度は、上記の通り、センター主催第4回オープンフォーラムおよび共催事業として小中学校教員・日本語ボランティア現職者研修会を開催した。この二つについてはそれぞれ別途報告する。

今年度はさらに日本語ボランティアのグループ「さくらの会」と本学留学生との定期的な交流（学期中、週2回）を4月から開始した。「さくらの会」は名古屋市民大学の日本語ボランティア養成講座の修了生を中心に結成されたグループである。「日本人と日本語で話そう」というタイトルで、センター所属の留学生（日本語研修生、日本語・日本文化研修生）や短期交換留学生との定期的な交流を開始した。週2回、研修コースの授業終了後、午後3時から5時まで、センターの教室で交流が実施されるようになった。日本語の授業とは異なるリラックスした雰囲気では話ができるので、留学生にも好評である。社会経験豊富なボランティアの方々との会話から日本の社会や文化について学ぶことも多い。「さくらの会」のメンバーには日本

語授業のゲストをお願いしたり、ホームビジットにも協力して頂いている。次年度以降も協力関係を維持していきたい。

3．平成17年度の計画

来年度は、オープンフォーラムの開催、地域連絡会の話し合いにもとづく共催事業の実施、日本語ボランティアと本学留学生との定期的な交流会の開催、日本語ボランティアの研修会、という4つの活動を計画している。

地域社会への貢献は、留学生センター中期計画の重要な柱の一つである。日本社会が急速に多文化化していく中で、地域における日本語教育、外国人児童生徒の学校教育、日本人住民の外国人理解、異文化理解は重要な社会的課題となっている。留学生センターとしてはその人的、物的リソースを最大限に生かし、中期計画の達成に向けた取り組みを進める。